



第153期救急科を実施しました

[期 間] 令和6年5月27日（月）から7月11日（木）まで
34日間

[会 場] 埼玉県消防学校
所属消防本部（局）

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任
教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 25消防本部（局）88名
平均年齢24.1歳

埼玉県消防学校 第153期救急科 日課表

令和6年5月27日(月)～令和6年7月11日(水)
34日間 272時間

受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

日	曜日	1時限 8:30～9:20	2時限 9:20～10:10	3時限 10:10～11:00	4時限 11:10～12:00	5時限 13:00～13:50	6時限 13:50～14:40	7時限 14:50～15:40	8時限 15:50～16:40
5/27	月	入校式	ガイダンス (担当教官)			救急活動(法規) (戸田市消防本部 小松 巧 講師)			
5/28	火	循環器・出血 (川口市消防局 小原 寛 講師)				神経 (深谷市消防本部 大澤 勇介 講師)			
5/29	水	消化器 (西入間広域消防組合消防本部 小嶋 恭平 講師)			呼吸器 (行田市消防本部 由利 洋介 講師)		救急医療 (医療整備課)		
5/30	木	効果測定① (担当教官)	泌尿・生殖器 (埼玉東部消防組合消防局 丸山 歩 講師)			運動器 (埼玉県央広域消防本部 磯崎 雅彦 講師)		社会保障・社会福祉Ⅱ (社会福祉課)	
5/31	金	観察 (さいたま市消防局 醍醐 雅祥 講師)			内分泌・代謝 (埼玉県南西部消防局 鈴木 広高 講師)		皮膚・感覚器 (吉川松伏消防組合消防本部 杉井 卓人 講師)		
6/3	月	ショック (熊谷市消防本部 木村 聡 講師)				CPA・CPR (蕨市消防本部 渋谷 淳一 講師)			
6/4	火	血液・体液・熱中症 (埼玉県南西部消防局 岩田 浩之 講師)			社会保障・社会福祉Ⅲ (地域包括ケア課)	細菌・感染症・感染防止・消毒 (上尾市消防本部 関根 範道 講師)			
座学	6/5	応急処置総論・各論 (埼玉西部消防局 三浦 啓太 講師)			熱傷・電撃症・救急搬送 (埼玉西部消防局 平岩 輝一 講師)				
	6/6	急性心血管系疾患 (比企広域消防本部 大木 克仁 講師)			急性腹部疾患 (羽生市消防本部 岡野 俊之 講師)				
	6/7	急性呼吸器疾患 (児玉郡市広域消防本部 石井 隆行 講師)			脳血管障害 (草加八潮消防局 眞貝 健志 講師)				
	6/10	集団災害 (川越地区消防局 福本 淳也 講師)			意識障害 (熊谷市消防本部 木村 聡 講師)				
	6/11	腹部外傷 (蓮田市消防本部 阿部 聡 講師)			一般外傷各論 (春日部市消防本部 水越 禎之 講師)				
	6/12	外傷総論・その他外傷処置 (埼玉東部消防組合消防局 宮澤 広延 講師)			脊椎・脊髄損傷 (埼玉西部消防局 北田 将次 講師)				
	6/13	頭部・顔面外傷 (秩父消防本部 松尾 一樹 講師)			胸部外傷 (三郷市消防本部 豊田 麻里 講師)				
	6/14	効果測定② (担当教官)	検査・高齢者 (坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部 山岸 裕司 講師)			処置各論(心電図) (埼玉県央広域消防本部 金子 悟 講師)			
	6/17	急性中毒 (川口市消防局 小原 寛 講師)			資器材取扱 (旭化成ZOLLメディカル)	処置各論(在宅療法) (入間東部地区事務組合消防本部 枝窪 慎也 講師)			
第一回事前	6/18	小児救急医療 (さいたま市消防局 醍醐 雅祥 講師)			産科・周産期 (草加八潮消防局 宮田 晃宏 講師)				
第二回事前	6/19	精神救急 (上尾市消防本部 児島 雅史 講師)			鑑識 (埼玉県警察)	四肢・骨盤外傷 (越谷市消防局 當間 貴幸 講師)			
第三回事前	6/20	異物・溺水 (越谷市消防局 松沢 聡史 講師)			接遇 (さいたま市消防局 醍醐 雅祥 講師)	安全管理		実技訓練概要 (担当教官)	

訓練場所 埼玉県消防学校 大講義室 屋内訓練場

		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限							
		8:30~9:20	9:20~10:10	10:10~11:00	11:10~12:00	13:00~13:50	13:50~14:40	14:50~15:40	15:50~16:40							
実技	6/21	金	後日掲示の救急科タイムテーブル参照													
	6/24	月														
	6/25	火														
	6/26	水														
	6/27	木														
	6/28	金														
	7/1	月														
	7/2	火								産婦人科救急訓練 (草加八潮消防局 担当講師)						
	7/3	水								内因性シミュレーション						
	7/4	木								外因性シミュレーション						
	7/5	金								効果確認シミュレーション						
	7/8	月								総合シミュレーション						

受講場所 所属消防本部（局）

実技	7/9	火	現場実習						
	7/10	水	現場実習						

受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限
		8:30~9:20	9:20~10:10	10:20~11:10	11:10~12:00	13:00~13:50	14:00~14:50	15:00~15:50	15:50~16:40
座学	7/11	木	R・I (埼玉県衛生研究所)	資機材取扱 (コーケンメディカル)	社会保障・社会福祉Ⅰ (国保医療課)	救急交通 (埼玉県警察)	修了式 (担当教官)		

座学風景



心肺蘇生訓練



外傷訓練



気道確保訓練



車外救出訓練



内科疾患訓練



蕨市消防本部 守田 直之 消防副士長 * 第1小隊総代

修了しての感想

私たち 88 名の学生は、各消防本部から来てくださった救急救命士の先輩方、訓練環境を整えていただいた教官方など多くの方々からのご支援、ご協力により本研修を修了することができました。

救急科入校前は、救急の知識が浅く不安なこともありましたが、今では救急に興味を持ち、自ら勉強してもっと多くの知識を得ようという意欲を持てました。

消防官として救急は火災、救助事案に関係なく傷病者がいる限り必要になってくる要素です。そのスタートラインに立ったことを自覚し、今後の消防人生に活かしていきたいです。



後輩へのメッセージ

救急科では座学、実技と 2 部構成になっています。座学では、基本的な救急知識だけでなく、現場での実際の症例を交えた講義もありとても貴重な時間になっています。実技では、座学で学んだ知識を中心に進めていきますが、自分 1 人の力だけでなく分隊の皆で協力しながら活動していきます。

救急知識を学ぶことはもちろんですが、この救急科に集まった仲間たちとの絆も深めて、より充実した時間にしてほしいです。そして、この救急科を通じて成長できることを期待しています。

埼玉県南西部消防局 久保 和輝 消防副士長 * 第2小隊総代

修了しての感想

私は、救急業務にあまり興味がない状態で第 153 期救急科に入校しました。しかし、初日に教官が「少しでも、救急に興味を持ってもらえれば」と言っており、この期間を過ごし、多くの人と接し、多くの人に寄り添うことのできる業務だと感じました。また、総代という役職をもらいましたが一人の隊員として、多くの知識と技術を学ぶことができました。たくさんの指導に感謝しています。



後輩へのメッセージ

「救急の知識・技術」は、救急隊だけでなく、消防隊や救助隊、指令センターなど、どの場所においても必要なものだと、救急科を通して感じました。救急隊は大変だ、寝られない、などのイメージがありますが、その分、助けを必要としている人、その家族を救っています。皆さんが、この先どの道に進むかはわかりませんが、一人の消防職員として、少ない研修期間のなかで、一つでも多くのことを学び、各所属で市民に還元してください。応援しています。

羽生市消防本部 小林 翔 消防副士長 * 第1小隊副総代

修了しての感想

救急科では恵まれた訓練環境の中で救急の知識と技術を座学・実技にて学ぶことができました。多くのことを学ばせて頂き充実した日々を過ごすことができました。座学では難しい内容も多く不安も感じましたがその知識が実技に結びつく楽しさと喜びを知ることができました。そして救急科を修了し私自身、救急に対してさらに興味を持ちました。

所属に戻っても救急科で学んだことを基に市民、傷病者のために自己研鑽に励んでいきたいと思えます。



後輩へのメッセージ

救急業務は消防吏員である以上切っても切れない存在です。救急に対して興味がある人、興味がない人皆さんの気持ちは様々だと思います。しかしどんな気持ちで入校しようとも救急の知識や技術は自分自身や家族、大切な人のためにも必ず役に立つものだと思います。救急科の34日間というのは長いようで非常に短いです。1日1日を大切に過ごしてください。そして救急科で出会うかけがえのない仲間と共に充実した日々を過ごしてください。皆様のご健闘をお祈り申し上げます。

人間東部地区事務組合消防本部 酒井 香菜 消防副士長 * 第2小隊副総代

修了しての感想

修了してみると、長いようで短いとはまさにこのことで、本当にかげがえのない34日間でした。講義ではこれから医療に携わるんだという気持ちになり、実技では救命士として現場で活躍されている教官方の教えや周りの同期に助けをもらいながら自分の成長を実感することができました。実技に不安があり、当初はできなくて恥ずかしいという思いがありました。ですが学校は学ぶ場と切り替え、わからないことは聞き、できないことは教えてもらいながら無事に修了することができました。

消防人生を歩むにあたり、自分の活躍の幅を広げることができるとても貴重な経験でした。救急科で出会えた方々とのご縁を大切に、この学びを日々の業務に活かしたいと思えます。



後輩へのメッセージ

埼玉県内の、職歴・年齢・所属の違う消防職が集まる救急科という場所で存分に学び、そして実技では汗をかきながら、ぜひ自分の武器をたくさん身につけてください。ここでしか学べないことや感じられないことがたくさんあります。共に学ぶ同期や業務多忙の中教えに来てくださる教官方とのご縁を大切に、積極的に取り組んでほしいと思えます。